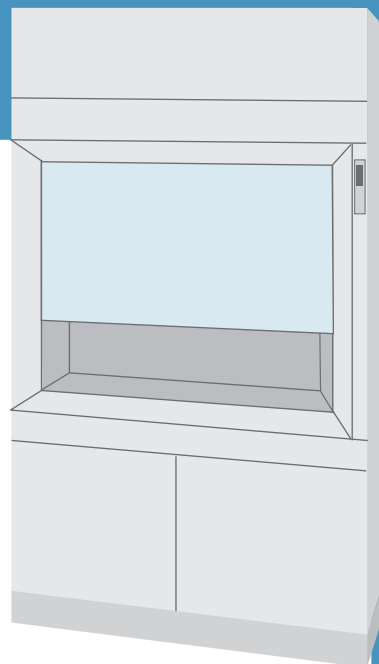


実験機器の 省エネも実施してください!

教育研究活動に
影響のない範囲で

実験機器の利用は、本学のエネルギー使用量に大きく影響を与えるものであり、使用者1人ひとりのちょっとした気配りが、その使用量抑制につながります。

特に、本学に**800台以上**あるドラフトチャンバーは、運転時室内の温湿度環境に影響を与え、空調設備のエネルギー使用量が増える場合があります。



～実験活動における省エネ節電行動の提案～

実験機器

提案
1

実験で使用しない、また実験に支障がなく、電源をオフにできる実験機器は、**電源を切りましょう!**

提案
2

使用電力の高い実験機器*1の使用は、**電力ピーク時間帯(13時～16時)を避けましょう!**

*1(電気炉・乾燥機・ICP発光分光分析装置等)

ドラフトチャンバー

提案
3

実験操作していない時は、**ドラフトチャンバーの前面扉を閉めましょう!**

提案
4

定風量方式のドラフトチャンバーを設置している場合、**排風機に変風量制御(インバーター)を導入しましょう!***

*2導入する場合、事前に施設担当者へご相談ください。現状設置のドラフトチャンバーや排風機によっては導入できない場合もあります。

提案
5

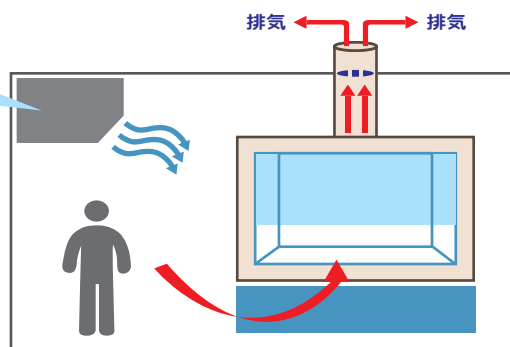
ドラフトチャンバーを買い替える際は、**省エネルギー性の高い機器や変風量制御(インバーター)付き又は、低風量型(プッシュプル型)ドラフトチャンバーに置き換えましょう。**

空調の
電力ロスの軽減

空調された室内の空気が
ドラフトチャンバーから排気される

研究室の換気・空調システムは、1台のドラフトチャンバーが1台の排風機に1対1でつながれたものが一般的で、ドラフトチャンバーの台数が増えると、排風機の台数が増え、また、外気が室内に流入しやすくなる場合があるため、空調の効率が悪くなるなどの問題が発生します。

適正な風速が得られない老朽化したドラフトチャンバーの利用は、研究者の健康を損なう危険があり大変危険です。



【点検項目】

ドラフトチャンバーの前面扉は適正な風速(有機溶剤を使用する場合:フードの開口面で制御風速0.4m/s以上、特定化学物質の場合、0.5m/s以上)が得られているか、ご確認ください。



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

普段の省エネルギー活動は「省エネルギー対策の手引き2018」をご参照ください。
北海道大学施設部ホームページ > 学内向け > 省エネルギー対策の手引き2018

キャンパスマネジメント部門 内線 3660 osc@osc.hokudai.ac.jp